

九州・沖縄地区の 医療機関の倒産、 高水準で推移

倒産件数は 11 カ月累計で、過去4番目の水準

九州・沖縄 医療機関の倒産動向調査(2025 年度 2 月累計)



本件照会先

石倉 達也（調査担当）
帝国データバンク
福岡支店情報部
092-738-7779(直通)
tdb.fukuoka@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/03/25

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2025年度の九州・沖縄地区「医療機関」の倒産件数は 2 月までの累計で 9 件となった。11 カ月累計ながら、2000年度以降、最も多かった2024 年度の 13 件、2018 年度、2023 年度の 11 件に次ぐ高い水準となった。

不安定な中東情勢などによりエネルギーコストの上昇は続くとみられるほか、人材確保のための賃上げも見込まれることから、医療機関の倒産は引き続き高水準で推移するものとみられる。

※帝国データバンク福岡支店は、2025 年度の九州・沖縄地区「医療機関」の倒産発生状況について調査・分析を行った

集計期間：2000 年 4 月 1 日～2026 年 2 月 28 日まで

集計対象：負債 1,000 万円以上・法的整理による倒産

九州・沖縄地区「医療機関」の倒産、高水準で推移

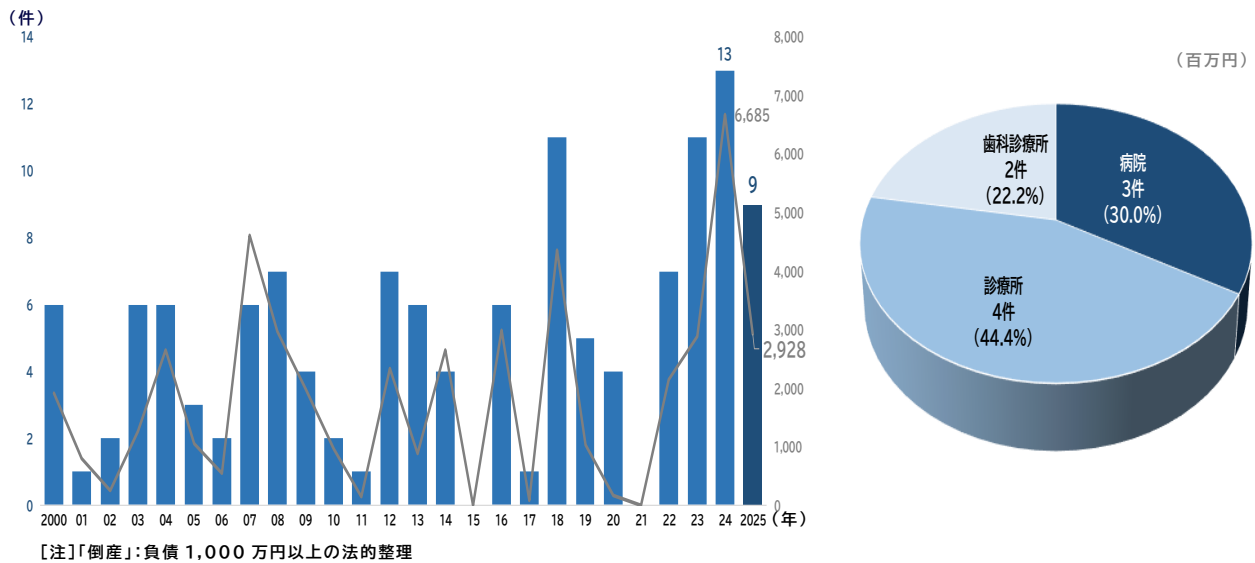
九州・沖縄地区「医療機関」の倒産が、2025年度(4月-2月)は9件となり、11カ月の集計ながら、集計基準を変更した2000年以降で最も多かった2024年度の13件、2018年度、2023年度の11件に次ぐ高い水準となった。

業態別では、「診療所」の4件(構成比44.4%)が最多、「病院」3件(同30.0%)、「歯科診療所」2件(同22.2%)が続いた。

帝国データバンク福岡支店が2026年3月に実施した九州・沖縄地区「医療機関経営動向調査」ⁱにおいても、2024年度の収入高上位50法人の損益についての分析では、62.0%が赤字となっており、2期連続赤字の法人も46.0%と半数に迫るなど、電気・ガスなどのエネルギーコストの上昇や人材確保のための人件費負担の上昇に、2年毎の診療報酬改定が追いついていない状況が浮き彫りとなった。

2026年度の診療報酬改定では、前回改定から大幅なプラスとなるが、不安定な中東情勢などにより、エネルギーコストの上昇は続くと思われるほか、人材確保のための賃上げも見込まれることから、医療機関の倒産は引き続き高水準で推移するものとみられる。

九州沖縄地区 医療機関倒産件数・負債額推移



ⁱ 帝国データバンク福岡支店「九州・沖縄 医療機関経営動向調査(2024年度)」2026年3月23日発表